

2. 3 Discussion about Global Leaders (英語分野)

(1) 研究開発の課題 (研究概要)

これまでの本校の国際交流事業は希望者を対象としたオンライン上の国際交流や海外派遣事業など、一部の生徒が参加するものに限られていた。全生徒が直接外国人と交流できるプログラム開発が求められていた。そこで、一昨年度に引き続き、外国人留学生と直接対面した状態で、英語で交流できるプログラムを実施した。

(2) 研究開発の経緯

生徒が直接留学生と交流する時間を増やすために1クラス10名程度の留学生を招請することを検討した。名古屋大学大学院国際理解教育プログラムに依頼し、名古屋大学に在籍する留学生17名(タイ、インドネシア、ウガンダなど様々な国出身の留学生)を招いて意見交換した。

(3) 研究開発の内容

ア 仮説 (ねらい、目標)

英語コミュニケーション力の育成及び異文化理解を目的として実施した。

イ 研究の内容・方法

該当教科 SSH 英語発展

対象生徒 普通科2年生生理系生徒 210名

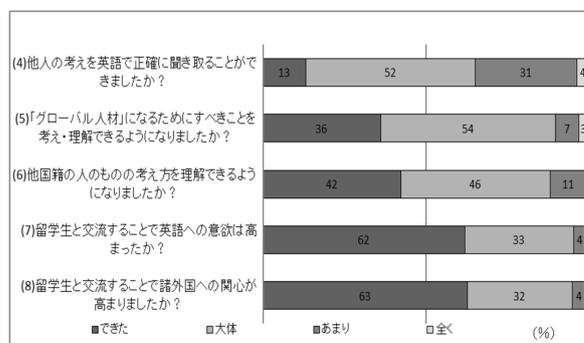
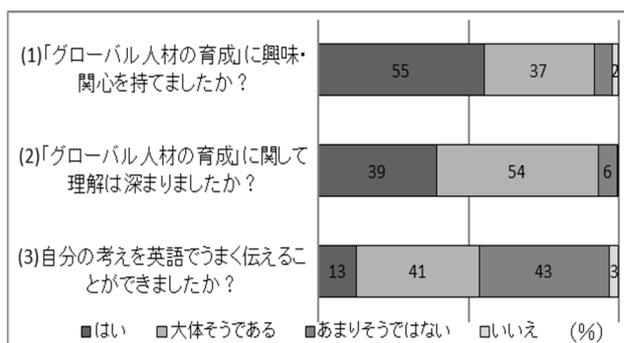
日時場所 令和3年11月17日(水) 桃陵館

実施内容 1クラス10グループに分け、生徒4、5人に対し、留学生1、2人がつく少人数のグループで実施した。「グローバルリーダーに必要な資質・能力とは」「これからの科学技術のあり方」など、世界や科学をテーマとし、生徒は事前に準備したプレゼン資料を用いて、自分の考えを発表した。発表後にはディスカッションの時間を設けることで考えを深めた。



ディスカッションの様子

ウ 検証 (成果と反省)



生徒の感想から

- ・自分の研究内容や考察について、英語で話し合う機会はとてありがたい。SDGsや人権問題など今私たちが抱える多様な問題について考えを深める機会を増やしたい。
- ・オンライン上でなく、直接対面で交流ができたことがよかった。単純な英語力だけでなく、ジェスチャーやアイコンタクトの重要性を再認識する機会となった。また、自分と異なる価値観を認め、理解しようとすることは今後の人生において非常に大事な要素になることが確信できた。

アンケートからは、生徒の興味・関心が高く、「将来の役に立つ」と答える生徒が多いことが分かった。講演会後の質疑も多く、「未来を見据えた考え方」や「情報の捉え方」について深く考える機会となった。